



## 事業を工学、経済、環境の3Eの観点から解析、変革し、SDGsや循環経済の達成を図る

1983年 筑波大学第一学群自然科学類(化学)卒業、工学修士(合成化学、大阪大学)、2004年 博士(環境科学)(東北大学)。  
1988年 通産省工業技術院 公害資源研究所 入所。資源環境技術総合研究所燃料資源部主任研究官、工業技術院地球環境企画官付、UCDavis客員研究員(プラスチック分解論, 1995-7年)、産業技術総合研究所環境管理技術研究部門上級主任研究員(廃棄物のエネルギー利用技術)。  
2021年 定年退職。「つくば環境工学」を起業。

対外活動：京都工芸繊維大学客員教授、上智・創価・関東学院大学 非常勤講師、環境省中央環境審議会 専門委員、環境大臣委嘱3Rマイスター。

専門分野：木質やプラスチック廃棄物の資源化の反応工学(化学や熱収支)、熱分解プラントの技術や事業性の評価。

参考URL：<https://youtu.be/kbAoRQ1tYVk>

「脱炭素地獄」とも称される社会環境のもと、持続可能な事業活動への転換が迫られています。欧州では、「タクソノミー」として業種ごとに持続可能性を判断する要件の策定が始まっています。

私は産業技術総合研究所で、プラスチックや木質の廃棄物の熱分解・燃料化、プラントの開発、事業性の支配因子を研究してきました。与えられた事業条件とプロセスの仕様や運用で経済性と環境負荷が決まります。コンサルティングでは、事業条件への工学的な最適化で、最小の環境負荷で最大の利益を与える持続可能な事業を構築するお手伝いをします。